繪本埜居鴈

北齋

173

754.7
.H8u

6899

ゆかしみ
君乃ちとせ
ゆうよつるを
つき歌こゝの
ちとなかてしこれは麻見つゝ
しくあまし　しちりはいらこハし
やまさくらたちまちれと露のよそえそ
かのふなりて塩の雲にたくれ　なうと
沢君が名やよき出つるへくもちの
なかたちて気あいの小松の二葉
あひつ雲かくふまつて生れりん
千代の松十しなみ君をこしき
よせてふれてのつきて
たかやしもしまあ
かわのみおしもき
むしむしの野へは

よき
あり出
かくこて
なひをられ
たしほうらに
あさらかにうきにほけ
らんつれのやふよろさん
あまて人まろき人との
せしられにとまさもちや
のあるなもたつるにむされ
きもんもそいかまゐしく
紫山なうきまけて
むさし野の
柱ものあわもしかな
うらあや
なるらは
その
野の
野らのなかしらに

撫子の方

別府次郎起縄

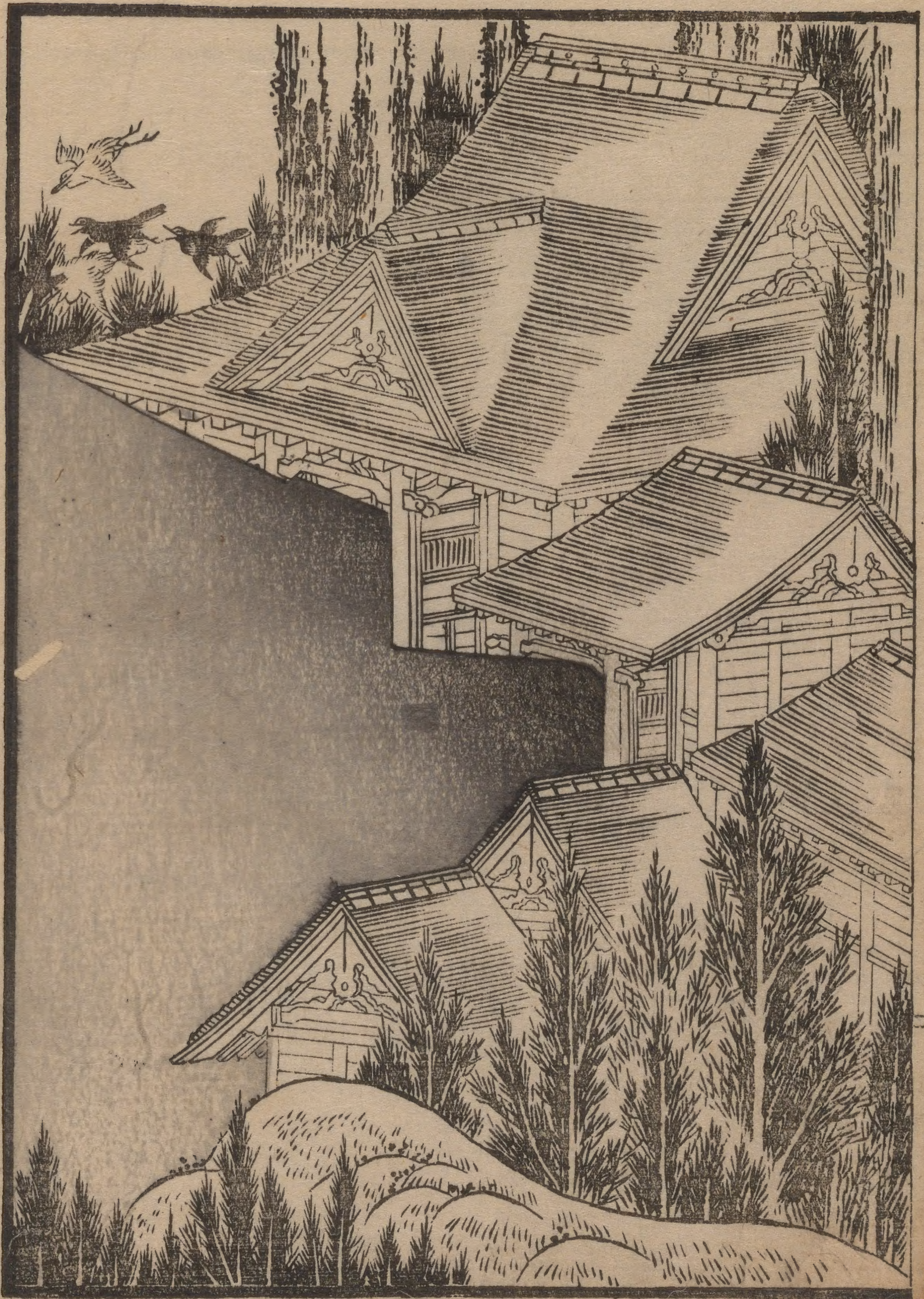
別府庄司元押

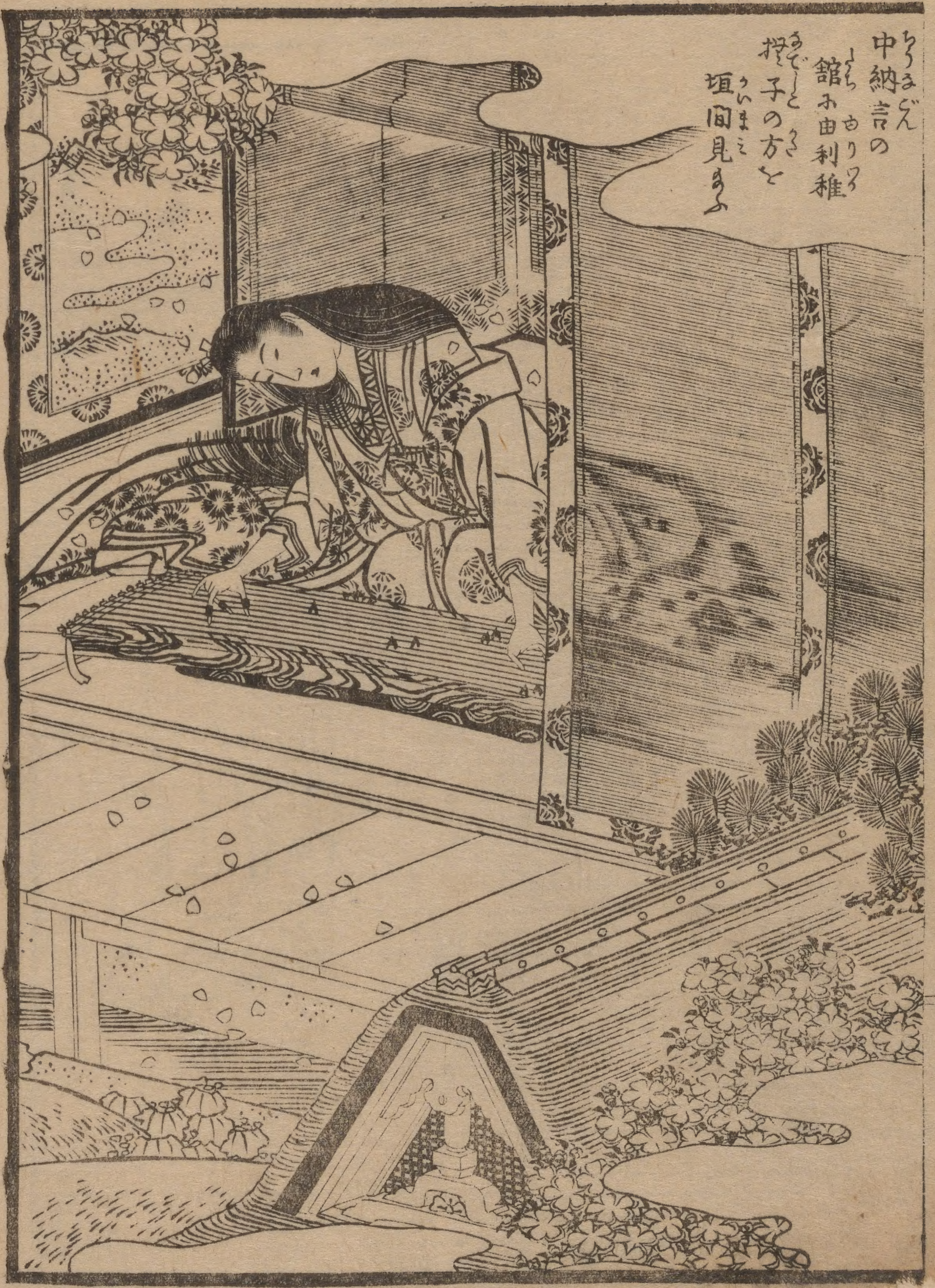
伏衣

巨則冠者

崖羽六郎忠光

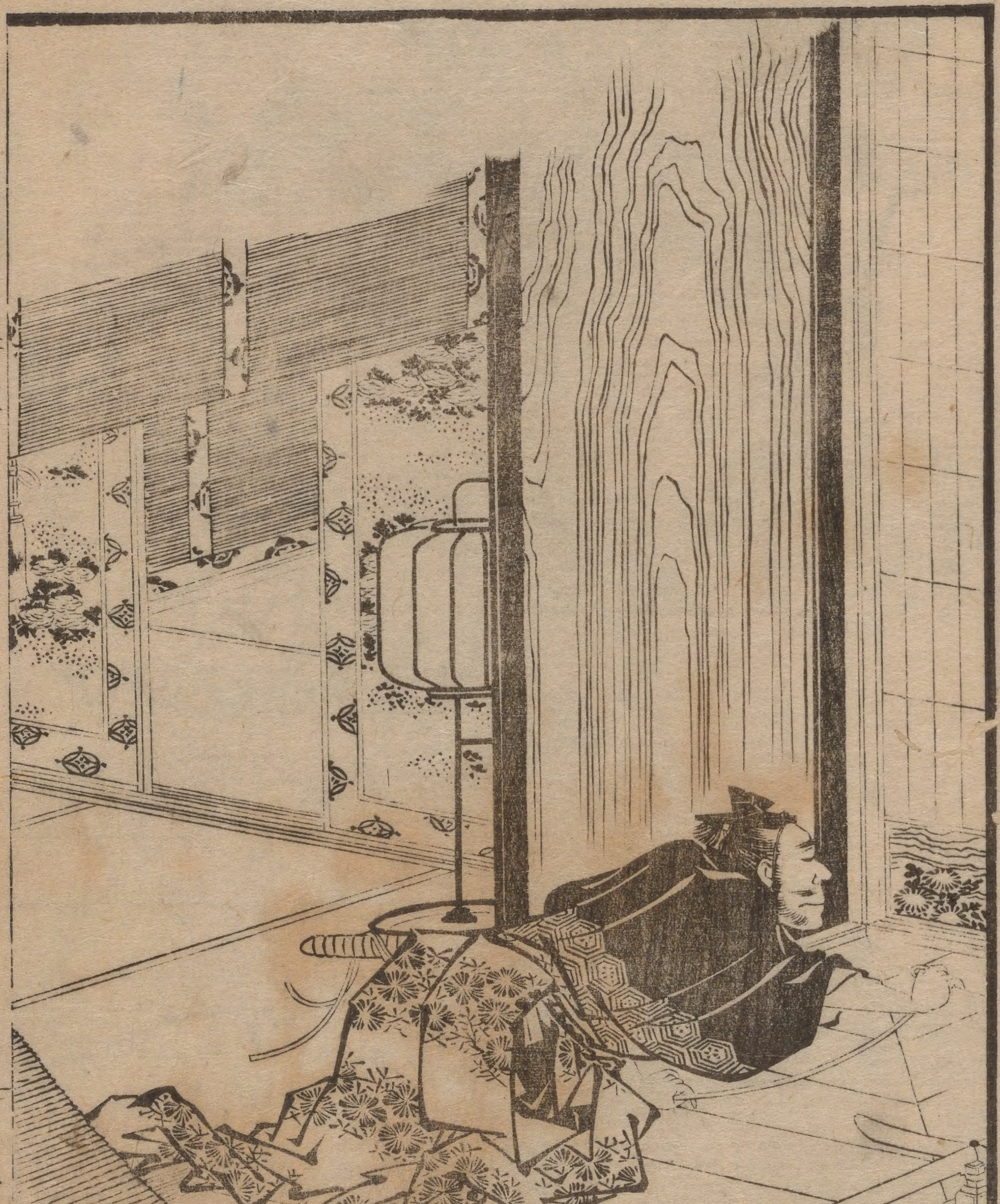
由利稚



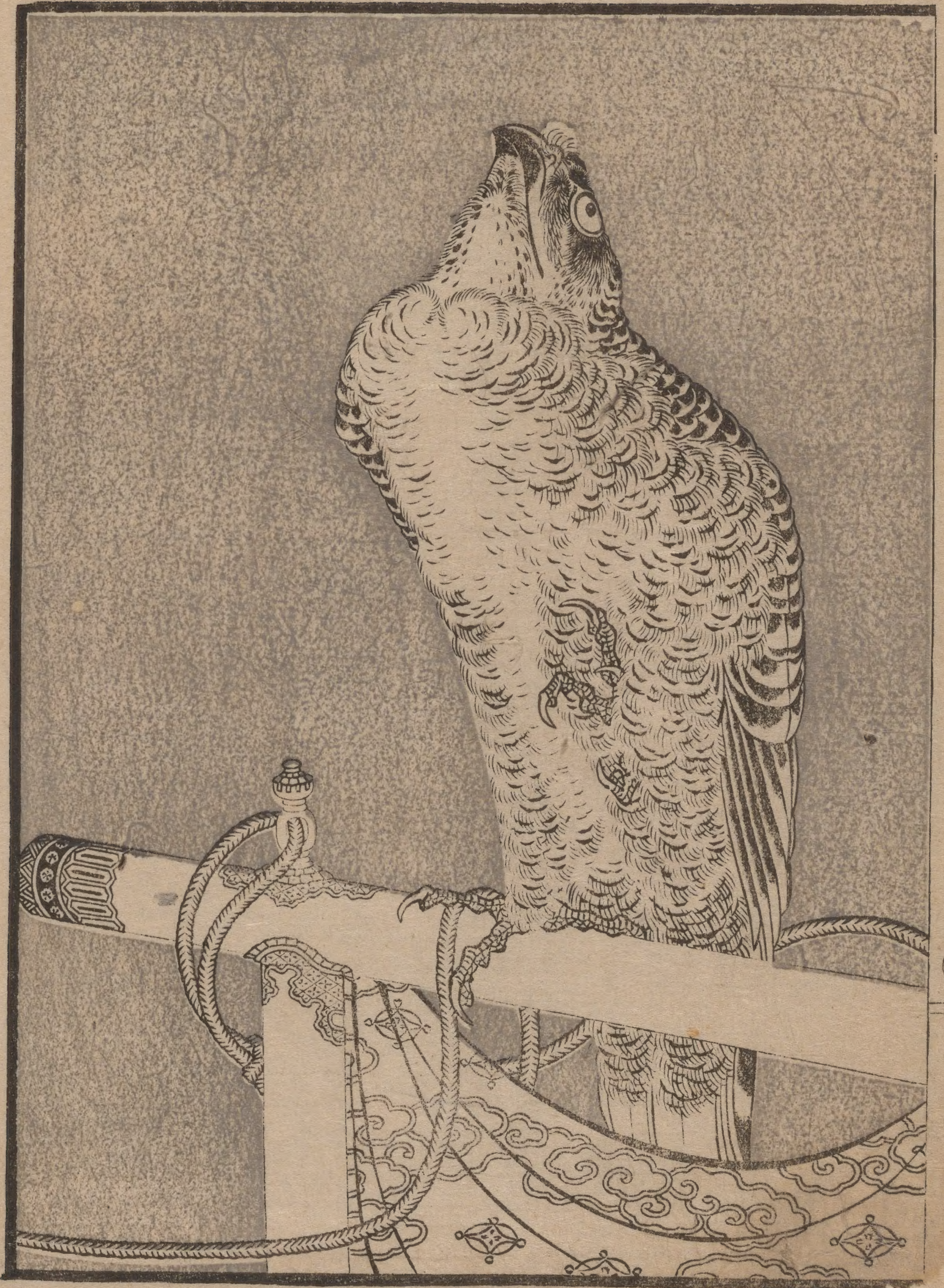

中納言の
館に由利稚
撫子の方を
垣間見る

陸奥十府の里にて鴎の一双を殺し
寄薬とせし

金花猫忠を尽して
主の奇難を救ふ



其二

其三

1198
Hokusai
Aozuyenōtaka 8.